

住まいの水回りトラブル 対策マニュアル いざという時のために!

執筆：東京都管工事工業協同組合 理事 メンテ副部会長 永島英俊氏

水回りのトラブルだけではなく、「カギを失くした」「害虫が出た」など、生活の緊急事態に駆けつける「暮らしのレスキューサービス」による消費者被害が社会問題化しています。これらは、専門技術を要する問題に即時対応してくれる事業者ですが、なかには悪質な事業者も存在します。これまでのマグネット広告やチラシ投函による集客から、現在はインターネットの普及に伴い、スマートフォンやパソコンなどを利用した勧誘がとても増えています。

検索サイトへキーワード（例えば「トイレ詰まり」など）を入力し、検索結果で上位に表示された事業者は、広告料金を支払うことで上位に表示されています（広告主は左上にスポンサーと表記されています）。そのため、上位に表示された事業者が必ずしも信頼できる事業者であるとは限りませんので、注意が必要です。

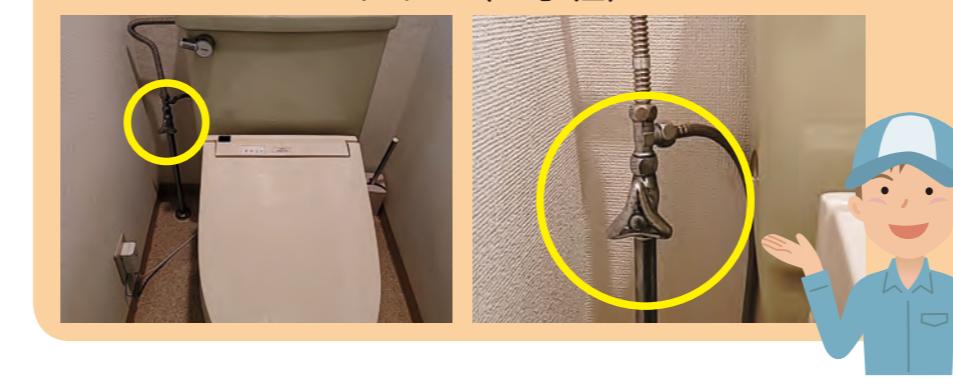


悪質業者の見分け方としては、以下の点に注意が必要です

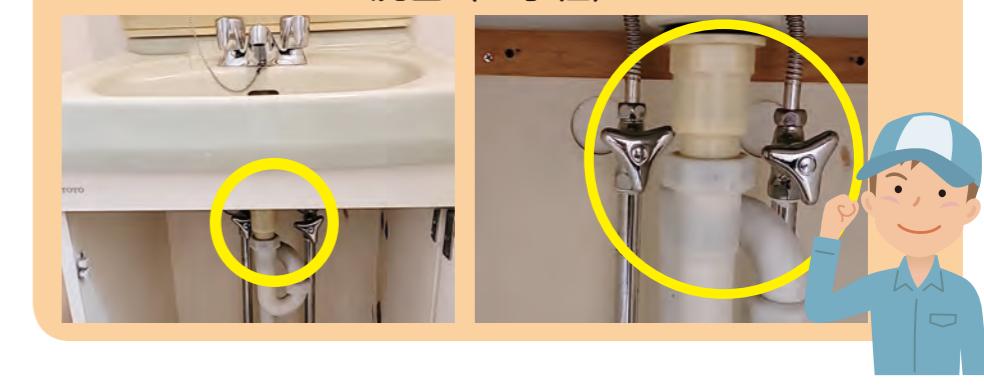
- 「基本料金〇〇〇円～」「WEB割引〇〇〇〇円」など、安さを強調した表示に注意しましょう。訪問後に不安をあり、不要な工事や高額商品をすすめられるケースがあります。
- 「今すぐ訪問」「24時間対応」など、緊急性を強



台所（止水栓）



トイレ（止水栓）



洗面（止水栓）

合や不安を感じる場合には、お住まいの自治体の消費生活センターへ相談しましょう。いったん契約の申し込みや契約の締結をした場合でも、一定の期間であれば無条件で契約の申し込みを撤回したり、契約を解除できる「クーリング・オフ制度」が適用される場合もあります。

応急処置としてできること

トイレや蛇口の水が止まらなくなった場合は、止水栓をマイナスドライバーで回して水を止めましょう。（下記写真参照）ただし、固くて回らない場合に無理をすると配管を壊す可能性があるため注意が必要です。止水栓が見つからない、または操作できない場合は、水道の元栓を閉めてください。

水道の元栓の位置は、戸建てでは敷地内の「量水器」ボックス内、マンションでは玄関横のパイプシャフト（パイプスペース）、アパートでは駐車場や共用部分にあることが多いです。トラブル時に慌てないためにも、日頃から元栓の場所を確認しておきましょう。

トイレの詰まりにはどう対応する？

トイレットペーパーの使い過ぎや硬い便による詰まりには、ラバーカップなどで圧力をかけて解消するのが効果的です。また、40～50℃くらいのお湯を注いで1時間程度放置することで、自然に解消する場合もあります。



上記作業で詰まりが解消しない場合は、水道業者へ相談しましょう。便器内に異物を落とした場合は、ラバーカップでは詰まりは解消せず、便器を取り外しての作業が必要になることがあります。さらに、経年劣化により排水管が逆勾配の状態になっ

いたり、排水管内で詰まっている場合はトーラーや高圧洗浄機を使用して、排水管内の異物を粉碎し洗浄する作業が必要になる場合もあります。

詰まりを予防するには？

トイレ→節水型トイレでは詰まりが起こりやすいため、トイレタンクレバーに「大」「小」がある場合、できるだけ「大」で流しましょう。便器が古くなり流れが弱い場合は2回流すようにしましょう。

キッチン→揚げ油、食用油、マヨネーズ、ドレッシングや卵の殻などは流さず、使用後に週に数回はシンクに水を溜めて、ぬるま湯を一気に流すことで排水管の詰まりが予防できます。



お風呂→髪の毛や石けんカスが詰まりの原因になります。お風呂を出る前に排水トラップの清掃を習慣にしましょう。



万が一の水回りトラブルに備え、信頼できる事業者を事前に確認しておくこと、応急処置の方法を知っておくことが、被害を最小限に抑えるポイントです。

東京都管工事工業協同組合（昭和6年創立）が運営する「総合設備メンテナンスセンター」は、東京23区内の水まわりトラブルを24時間365日体制で受付け修繕をしています。

電話 0120-850-195
ホームページ <https://www.tmc24h.jp/>
LINE 公式アカウント

